

## 2009 年度 分野別事例・概況シート

1. 分野	長期自然体験活動指導者養成研修とネイチャーゲーム																																																
2. 氏名	渡辺謙克 ID 18313																																																
3. 事例報告	<p><b>3-1 事例の概要</b></p> <p>「小学校の一週間の自然体験活動」が進められることになり、学校教育課程と連動した教育効果の高い体験活動を提供するための指導者を養成する、文部科学省の委託事業が全国各地で実施されている。地元の青少年野外体験施設では 3 泊 4 日の指導者養成研修会を実施。その構成部分の「自然体験活動の技術」6 時間の実習について指導依頼をうけ、「ネイチャーゲームを取入れた自然体験活動の展開」として、ロープワークやネイチャークラフトと組み合わせ実施したもの。</p> <p>参考表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">時刻</th> <th style="width: 20%;">項目</th> <th style="width: 30%;">小学生へ対するプログラムのねらい</th> <th style="width: 15%;">場所(晴天)</th> <th style="width: 25%;">(雨天)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11:00</td> <td>挨拶・概要説明</td> <td></td> <td>研修室</td> <td>研修室</td> </tr> <tr> <td>11:15</td> <td>ロープワーク術</td> <td>技の習得、知恵と想像力</td> <td>野外</td> <td>体育館</td> </tr> <tr> <td>12:30</td> <td>昼食</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13:20</td> <td>ネイチャーゲームの活用</td> <td>感性を生かした自然体験、発見と感動の共有</td> <td>野外</td> <td>体育館/一部 雨具で野外</td> </tr> <tr> <td>15:30</td> <td>休憩</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15:40</td> <td>ネイチャークラフトへの展開 (押し葉のタペストリー作り)</td> <td>自然体験における作品(成果品・お土産)作り</td> <td>研修室、素材 探しは野外</td> <td>研修室、素材 探しは野外</td> </tr> <tr> <td>17:00</td> <td>実習のまとめ(質疑応答)</td> <td></td> <td>研修室</td> <td>研修室</td> </tr> <tr> <td>17:30</td> <td>終了</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				時刻	項目	小学生へ対するプログラムのねらい	場所(晴天)	(雨天)	11:00	挨拶・概要説明		研修室	研修室	11:15	ロープワーク術	技の習得、知恵と想像力	野外	体育館	12:30	昼食				13:20	ネイチャーゲームの活用	感性を生かした自然体験、発見と感動の共有	野外	体育館/一部 雨具で野外	15:30	休憩				15:40	ネイチャークラフトへの展開 (押し葉のタペストリー作り)	自然体験における作品(成果品・お土産)作り	研修室、素材 探しは野外	研修室、素材 探しは野外	17:00	実習のまとめ(質疑応答)		研修室	研修室	17:30	終了			
時刻	項目	小学生へ対するプログラムのねらい	場所(晴天)	(雨天)																																													
11:00	挨拶・概要説明		研修室	研修室																																													
11:15	ロープワーク術	技の習得、知恵と想像力	野外	体育館																																													
12:30	昼食																																																
13:20	ネイチャーゲームの活用	感性を生かした自然体験、発見と感動の共有	野外	体育館/一部 雨具で野外																																													
15:30	休憩																																																
15:40	ネイチャークラフトへの展開 (押し葉のタペストリー作り)	自然体験における作品(成果品・お土産)作り	研修室、素材 探しは野外	研修室、素材 探しは野外																																													
17:00	実習のまとめ(質疑応答)		研修室	研修室																																													
17:30	終了																																																

### 3-2 事例の内容

#### ●ねらい

小学校の長期体験活動を受け入れることを前提とし、学校の教育課程と連動した自然体験の展開ができる指導者の養成

#### ●実施アクティビティ

全体構成の中の「ネイチャーゲームの活用」部分のアクティビティは以下のとおり。参加者17人、構成も看護師・学童保育スタッフ・施設活動のボランティア大学生・農業・ネイチャーセンター職員など多様であったので、補助指導員として、同じくネイチャーゲームインストラクターの近谷氏の応援を得た。

アクティビティ	ねらい
1 音いくつ	地域の自然を音で感じる
2 動物質問室	地域の動物について考える
3 同じものを見つけよう	地域の動植物を実際に見る触る
4 木の葉のカルタとり	クラフトへの導入として

#### ●参加者の反応

実習のまとめ&質疑応答の時間では参加者から以下のコメントが出た。

- ・ロープワークは専門知識やよほどの経験がないと指導は不可能かと思っていたが、ちょっとしたコツや世間一般に使われている事例の紹介を受けながらやってみると簡単に覚えられた。  
その先の奥が深い部分が更に興味をそそるし小学生でも夢中になれると思う、これくらいなら自分でも指導できそう。
- ・ネイチャーゲームは話に聞いていたが、当初イメージしていた堅苦しさが無かった。
- ・ネイチャーゲームはそれだけでももちろん楽しいのだが、活動と活動をつなぐ部分としても有効だとわかった。
- ・ネイチャークラフトとして作った押し葉のタペストリーは、自然の中で楽しんだ後のお土産として、嬉しさもあるし達成感も感じられた。

### 3-3 分野におけるネイチャーゲーム実践のポイントと留意点

今回は主催者側の事業のねらいから、指導のポイントを下記に絞ったうえでネイチャーゲームを実習の中に取り入れた。

- ①学校の教育課程と連動した自然体験の展開が図れる。
- ②学校受入れの季節を問わず、その場所(地域や施設エリア)ならではの自然を感じ取れる。
- ③専門用具や専門知識がいらず、施設や地域の方々と一緒に自然を楽しめる活動

とその指導法が学べる。

- ④一週間程度という長期に渡る受入れにおいて、企画セッティングする活動が単体完了形とならず、ストーリーや流れを意識した組み立てをするため活用する

学校長期自然体験活動指導者養成研修		【実習・・・自然体験活動の技術】まとめ	
		2009/9/12 渡辺	
項目	ねらい	留意点	教育課程(教科)との関連性・展開の例
ロープワーク	技の習得、知恵と創造力、達成感	単に結び方講習にならないよう、身近な応用物から関心を引き出すこと。便利品・既製品に頼らない、生きるための工夫ができる気づきの場。	生活に生かす(5・6年家庭科)
ネイチャーゲームの活用	感性による自然体験、自然への気づきを深め、発見と感動を共有する	①体験活動が単発や単独の活動にならないよう「導入」や「わからぬ(共有)」が大切②この地域(エリア)でも一年中、いつでも、大掛かりな仕掛けも道具も要らない自然体験手法を習得しておくことで多岐への展開が可能。	
1 音いくつ	地域の自然を音で感じる	感受性を高め、自然へ集中	色々な響き、重なり合う音の楽しみ(5・6年音楽)の情景を体験(住みよ、くらしと環境(6年社会))
1 動物質問室	地域の動物について	熱意を呼び起こす	地球と生き物のくらし(6年理科)
3 同じものを見つけよう	地域の動植物を実際に見る	感受性を高め、自然へ集中	生き物のくらしと環境(6年理科)
のらふへの導入)木の葉のカルタとり	葉についての注意力・探究心を高める	単純なゲームとならぬよう次のステップを意識	
ネイチャークラフトへの展開	①体験・発見・感性を創作にて表現の現場で即座に作り出すことでの達成感②期間中の思い出や感動を描き思い起こすことができる ③帰宅後、作品(お土産)を話し体験談や感動を家族に伝えることができる。家族が作品を通してリアルにその様子を思い、知ることができる。	①単に工作活動とならぬよう前後のとの連動性が必要 ②自然に押しロインパクトを意識させる	
制作 押し葉のタペストリー	(展開でのねらいと同じ)	グループで力と感性を合わせ一つの共同作品作り(一体験・思い出の共有)	
MEMO			

### 3-4 活動の評価

参加者のコメントにあった「当初イメージしていた堅苦しさ」とは、ネイチャーゲームによる自然体験活動とは最初から最後までネイチャーゲームのアクティビティで構成されていなければならないものだと思っていたことらしい。例えば今回「木の葉のカルタとり」は「押し葉のタペストリー」作りの導入として、その前段のタイミングで取り入れた。ネイチャーゲームの活動を通して、木の葉の大きさや形の多様に気づきその特徴の違いを楽しんでもらい。その後のタペストリー作りで、葉脈に意識しての写し方や、個々の感性でとらえた葉の彩りをアクリル絵の具の色使いで多様に表現してほしかったものだったが、どうやらその参加者にとって、この実践がこれまでのネイチャーゲームのイメージを変えるとともに、自然体験活動プログラムを組み立てる際、常に突き当たっていた一つの壁を乗り越えるヒントになったと思われる。

### 3-5 今後の課題

このような研修会において、ネイチャーゲームを取り入れ様々な体験活動とのコラボレーションによる自然体験活動を紹介していくことは、ネイチャーゲームそのものの理解と普及に直接効果的につながるものであることは間違いのないと思われる。ただし、今回みたいな参加者がそれぞれの分野において指導者的立場でネイチャーゲームを取り入れ活動してもらうためには、ネイチャーゲームの理念

やねらいを十分に理解し、アクティビティの特性に沿った活用をしてもらいたい。そういう意味では、安易的かつ間違ったネイチャーゲーム指導の氾濫を防ぐ意味で、今回のような研修では一度にたくさんのアクティビティを紹介しないことにも努めた。したがって、これら参加者をいかにリーダー養成講座に誘導できるかが課題と言える。

今回は主催者側の許可を得て、参加者全員にリーダー養成講座なるものの紹介をした。また、全員からの承諾を得てその募集時期になったら案内書を送付することとしている。昨年も同様な手法をとったが、我々県協会のリーダー養成講座開催が10ヶ月後の翌年7月だったので参加者の熱が冷めてしまい、案内送付への反応はいまいち冴えなかった。まだ工夫の余地はあると思うのでこの部分も併せて課題としたい。

### 3-6 写真、プログラムシート



#### H21年 学校長期自然体験活動指導者養成研修 (第1回 H21年9月12日) 【実習①自然体験活動の技術】プログラム

日	時刻	項目	ねらい・内容	場所(雨天)	(雨天)	担当
12日	11:00	挨拶・概要説明		研修室	研修室	
	11:15	ロープワーク・キャンプ術	技の習得、知恵と想像力	野外(曲り家周辺)	体育館	濃辺、近谷(77)
	12:30	昼食				
	13:20	ネイチャーゲームの活用	感性と自然体験、発見と感動の共有	野外(曲り家周辺)	体育館/一部 雨具着用で 野外	濃辺、近谷
	15:30	休憩				
	15:40	ネイチャークラフトへの展開	自然体験における成果品作り	曲り家、素材探しは野外	曲り家、素材探しは野外	濃辺、近谷(77)
	17:00	実習のまとめ	全体の振り返り・質疑応答	研修室	研修室	
	17:30	終了				

#### 各実習項目の詳細

- ロープワーク・キャンプ術 11:15～12:30 濃辺
  - ①ロープワークの基本結び6パターンの習得
  - ②キャンプ活動や自然体験プログラムへの応用
- ネイチャーゲームの活用 13:20～15:30
  - ①季節を問わずその場所ならではの自然を感じ取る、専用備品や専門知識の要らない自然体験の展開
  - 1 音いっく 地域の自然を音で感じる 13:30～ 近谷
  - 2 動物質問室 地域の動物について 13:50～ 濃辺
  - 3 同じものを見つけよう 地域の動物の生態について 14:20～ 近谷
  - (雨天案) ノーズ→動物交差点→動物質問室→動物ピクトリレー→動物カテゴリ→動物テーマで進める)
- ネイチャークラフトへの展開
  - ①クラフトへの導入術
    - ・導入手法
    - 4 木の葉のカルタとり 14:50～15:30 近谷
  - ※ 休憩 15:30～15:40
  - ②ネイチャークラフト(葉っぱのタペストリー 製作)
    - ・説明/素材集め 15:40～16:00 濃辺
    - ・実製作 16:00～17:00 濃辺
- 実習のまとめ 17:00～17:30 濃辺
  - ①各実習プログラム(又は各アクティビティ)と教育課程との関連性および展開
  - ②質疑応答

4. 分野の概況	<p><b>4-1 分野の今日的な概要</b></p> <p>文科省・農水省・総務省の連携により平成20年度から子ども農山漁村交流プロジェクトがスタートし、「小学校の一週間の自然体験活動(農山漁村体験)」が進められることになった。学校教育課程と連動した教育効果の高い体験活動の機会を提供するために、農水省はその受入れ地域整備事業に、文科省は学校へのモデル事業と、その受入れの指導者を養成する事業を全国の団体に委託し各地で実施されている。</p> <p><b>4-2 分野を理解するキーワードとその説明</b></p> <p>【子ども農山漁村交流プロジェクト】</p> <p>学ぶ意欲や自立心、思いやりの心、規範意識などを育み、力強い子どもの成長を支える教育活動として、小学校における農山漁村での長期宿泊体験活動を推進する。全国2万3千校(1学年120万人を目標)で体験活動を展開することを目指し、今後5年間で、①農山漁村における宿泊体験の受入体制を整備、②地域の活力をサポートするための全国推進協議会の整備等を進める。平成20年度の取組は、①農山漁村での1週間程度の宿泊体験活動をモデル的に実施し、これら活動を通じて、課題への対策、ノウハウの蓄積等を行う、②セミナー等による情報提供等を行い、体験活動の実施に向け、国民各層を通じた気運醸成を図る、③関係機関での情報の共有化等を図り、地域の自立的な活動につなげる。</p> <p>【小学校長期自然体験活動指導者養成事業】</p> <p>小学校が実施する1週間の自然体験活動を支援するため、全体指導者と補助指導者を養成する文科省事業。</p> <p><b>4-3 その分野を学ぶための参考資料</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在はこれに特化した参考文献、資料はないと思います。</li> <li>・ 農林水産省、文部科学省、総務省の各ホームページ</li> </ul> <p>または 文部科学省の新学習指導要領及び各教科の指導要領解説</p> <p><b>4-4 その分野に関係する主要団体</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農林水産省 ・ 文部科学省 ・ 総務省</li> <li>・ 独立行政法人 国立青少年教育振興機構</li> <li>・ 財団法人 都市農山漁村交流活性化機構</li> </ul>

